

【自由論題セッション】

負債が健康等に与える影響

駒村康平(慶応義塾大学)、上村一樹(甲南大学)

1. 背景と目的

資産形成と同様に、借金、負債といった債務は資産形成（マイナスの資産形成、異時点間の貯蓄・消費行動）行動の一環とみることができる。負債のうち住宅ローンはもっとも一般的な債務であるが、他にも結婚資金での債務、事業での債務そして奨学金、消費者ローンなどの債務がある。しかし、資産形成と異なり、国内の債務・負債に関する研究は多くない。本研究は、新古典派経済学に基づけば「異時点間の合理的な貯蓄（マイナスの貯蓄＝負債）・消費行動」のはずの債務・負債があることで、人々の将来不安やストレスなどの心理的不安を通じて心身の健康状態を左右したりや幸福度に悪影響を与える可能性について分析する。負債の種類によって悪影響の程度が異なるのかについても分析を行う。

2. 分析方法

「日本家計パネル調査」(JHPS)を用いて、負債が心身の健康状態や幸福度に与える影響を分析する。負債については、住宅ローンとその他の負債に分けて調査されているので、分析上でも両者を合算せず、別々に分析を行う。負債額の分布は右裾が長いので、金額そのものを説明変数にすると、ごく小数の異常値に結果が左右される。そのため、先行研究にならない、負債の有無、負債が上位何%に入るか、何万円以上何万円未満かなどのダミー変数や、負債と年収の比率などの変数を作成して、分析に用いる。観察されない異質性をコントロールするために固定効果モデルによる分析を行う。

3. 結果

現状では、住宅ローンの保有、その他負債の保有が心身の健康状態や幸福度に悪影響を与える、という結果を得ている。今後、分析に加える変数や分析方法についてさらに精査を行う。

4. 考察

負債の保有が心身の健康状態や幸福度に悪影響を与える、という結果は、英国の MaPS 同様に国民の債務について相談に応じる公的機関が重要である、ということを示唆する。今後、負債について相談に乗ってくれる相手が居るかどうか、返済の見通しがあるかどうかなどで、心身の健康や幸福度への悪影響がどのように変化するのかについても検討したい。

文献

Hojman, D. A., Miranda, Á., & Ruiz-Tagle, J. (2016). Debt trajectories and mental health. *Social science & medicine*, 167, 54–62. <https://doi.org/10.1016/j.socscimed.2016.08.027>

佐々木一郎(2022)『幸福感と年金制度』中央経済社

晝間文彦「多重債務者」は合理的か？—消費者破産に対する新古典派標準モデル批判—『早稲田商学』370号, 1996年10月

晝間文彦「脳の特性と経済活動」『臨床精神医学』38巻第1号, 2009年1月